

ろうきんの理念

ろうきんは、働く人の夢と共感を創造する
協同組織の福祉金融機関です。

ろうきんは、会員が行う経済・福祉・環境および
文化にかかわる活動を促進し、人々が喜びをもって共生できる
社会の実現に寄与することを目的とします。

ろうきんは、働く人の団体、広く市民の参加による団体を会員とし、
そのネットワークによって成り立っています。

会員は、平等の立場でろうきんの運営に参画し、
運動と事業の発展に努めます。

ろうきんは、誠実・公正および公開を旨とし、
健全経営に徹して会員の信頼に応えます。



Contents

ろうきんの理念	1	[意思のあるお金1] ろうきんならではの商品・サービス	10
トップメッセージ	2	[意思のあるお金2] 地域社会との連携	16
はたらく人の雇用と生活を支え続けてきたろうきんの歩み	3	[意思のあるお金3] ESG投融資の取組み	27
ろうきんビジョン2035	4	ディーセント・ワークの実践	29
ろうきんSDGs行動指針	5	取組みのハイライト	30
ろうきんがめざす「人々が支え合う共生社会」	6	ろうきんのネットワーク	31
ろうきんの社会的役割とお金の流れ	7		

トップメッセージ



一般社団法人 全国労働金庫協会
理事長 西田 安範

読者の皆さま、『ろうきんSDGsレポート2025』へようこそ。

ろうきんは、生活に必要な金融サービスを受けられなかった労働者や生活者が、自ら築きあげた協同組織の福祉金融機関です。1950年の誕生以来、常にはたらく人に寄り添い、住宅や教育の資金、資産形成など、はたらく人の多様なニーズに応えてきました。そこには、一貫して、はたらく仲間の生活を守り、支え、応援する、ろうきんの姿がありました。

私たちはいま、気候変動や平和と安全への脅威、社会経済情勢の不確実性の高まりに直面し、物価高騰や格差の拡大、分断や排除の動きが世界各地で見られるなど、持続可能な社会の実現への岐路に立たされています。また、デジタル化は金融サービスの変質を生み出し、はたらく人のライフスタイルや働き方も多様化しています。

変動を続ける社会において、ろうきんは、私たちの金融サービスがはたらく人の期待に応えているかを常に自問し、変革を進めていかなければなりません。2024年に策定した「ろうきんビジョン2035 ～共感と協創～」には、“福祉金融”という変わらぬ目的と協同組織の本質、価値観を大切にしながら、はたらく人とその家族の生涯に寄り添

い、変革を続けるろうきんの決意が込められています。また、ろうきんだけでは解決できない、はたらく人の「働くこと／暮らすこと」の課題解決に向け、会員・地域との協同を掲げています。

その実践として、全国のろうきんでは、収入減少に直面した方への特別融資や多重債務問題への対応、非正規雇用で働く方や自然災害等で被災された方への生活支援、職場・学校での金融教育セミナーの開催やソーシャルセクターへの金融機能提供など、地域に根差した特色ある活動を展開しているところです。

さて、国連は、様々な分野でSDGsに貢献する協同組合を評価し、その認知向上と振興を促すために、2025年を「国際協同組合年」と決めました。国際協同組合年のメッセージが示すように、よりよい世界を築くためには、私たちがいかに“つながり”を創出し、深めていくかが重要です。

ろうきんは、共助のネットワークと金融機能を活かしながら、はたらく人の生活向上という使命を徹底して追求し、その大切な資金を“意思のあるお金”として持続可能な社会へと循環させていきます。このSDGsへと続く連帯と包摂の資金循環を、〈共感と協創〉の力をもって実践し、誰一人取り残さない社会への歩みを進めてまいります。

はたらく人の雇用と生活を支え続けてきた ろうきんの歩み

1950年に岡山県と兵庫県で設立されて以来75年、常にはたらく仲間
に寄り添い、その時々の変化により、はたらく人とその家族の生
活を支えるためのセーフティネットとしての機能を果たしてきました。

はたらくあなたの、
いちばんそばに。



はたらく人のための 金融機関を

1950年
はたらく人が資金を出し合
い岡山県と兵庫県でろうき
んを設立



はたらく人の 資産形成促進

1972年
財形貯蓄の取扱いを開始
現在では、契約件数・残高とも
に金融機関全業態第1位※



※厚生労働省調べ
(2025年3月末)

サラ金被害から はたらく人を守る

1983年
消費者金融の高利・多重債
務が社会問題となるなか、
はたらく人の被害の防止と
救済を目的に、全国で「サ
ラ金対策キャンペーン」を
展開



福祉事業の 助成・融資

1995年
阪神・淡路大震災を受け、
「緊急融資制度」と「震災遺
児支援定期」を創設

2000年
阪神・淡路大震災での「ボ
ランティア革命」を受け、金
融界初※のNPO向け融資制
度を創設

※旧群馬県労金・旧東京労金
(現中央労働金庫)、近畿労働
金庫で開始(2000年4月)

就労支援・ 生活応援

2005年
消費者教育誌「マネートラブ
ルにかつ!」の発行を開始
「ろうきん森の学校」を開校

2007年
多重債務に陥ったはたらく
人の救済を目的に全国で
「生活応援運動」を展開

2008年
リーマンショックを受け、
「就職安定資金融資」の取
扱いを開始

2009年
お金に係る諸問題に対応す
る「生活応援運動」の取組
みが評価され「ニッキン賞」
を受賞

2010年
労金連合会が「SRI(社会的
責任投資)原則」を制定

被災者支援と SDGsの取組み

2011年
東日本大震災の復興支援に
尽力
「21世紀金融行動原則」へ
署名

2014年
「ろうきんビジョン~人々が
支え合う共生社会の実現の
ために~」を策定

2016年
熊本地震の復興支援に尽力

2017年
労金連合会が「PRI(責任
投資原則)」へ署名

2019年
「ろうきんSDGs行動指
針」を策定

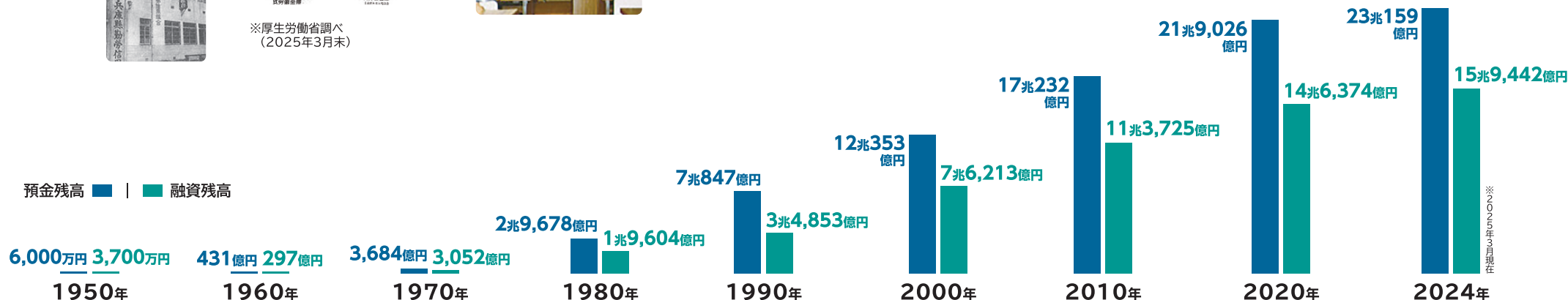
2020年
新型コロナウイルス感染症
拡大に伴う「勤労者生活支
援特別融資制度」を導入

共生社会の 実現

2021年
ILO条約(国際基準)に
沿った「労働金庫業態にお
けるあらゆるハラスメント
禁止ガイドライン」を策定

2023年
ILO-ろうきん共催フォー
ラム(「助けて」といえる社会
をつくる~社会正義の実現
に向けて~)を開催

2024年
「ろうきんビジョン2035
~共感と協創~」を策定



- 朝鮮戦争
- 神武景気となべ底不況
- いざなぎ景気
- 東京オリンピック
- 大阪万博
- オイルショック
- 消費税導入
- ソビエト連邦崩壊
- 阪神・淡路大震災
- バブル経済崩壊
- 日韓W杯
- リーマン・ショック
- 東日本大震災
- マイナンバー制度開始
- SDGs採択
- 熊本地震
- 新型コロナウイルス感染症拡大
- 東京オリンピック・パラリンピック
- 成年年齢引き下げ
- 能登半島地震
- 新紙幣の発行
- 新NISA制度の開始

ろうきんビジョン2035 ～共感と協創～

2024年、〈ろうきん〉に求められる役割・事業のあり方を踏まえ、次の10年余りで〈ろうきん〉業態がめざす姿を描いた「ろうきんビジョン2035～共感と協創～」を策定しました。全国の〈ろうきん〉は、会員・地域の仲間との共感を礎として、はたらく人の夢を実現するため、協創の取組みを進めていきます。

存在意義

はたらく人とその家族の夢としあわせな暮らしの実現 ～共感と信頼の力で / 会員・地域の仲間とともに～

提供価値

はたらく人とその家族の生涯に寄り添い、一人ひとりの様々な課題に真摯に向き合い解決する

夢としあわせの実現

はたらく人とその家族

安心できる暮らし



会員

労働組合、生協・こくみん共済 coop
互助会・友の会等

協同による共感と信頼



地域

労福協、協同組合、
ソーシャルセクター、行政・自治体、
その他理念・想いを共有する団体・人々



I はたらく人のいちばん近くで、
はたらく人を誰よりも深く知る

金融機能で課題解決をめざすこと

地域と協同して課題解決をめざすこと

II 時代のニーズを捉え、自らの機能・役割を常に見直し、
はたらく人一人ひとりに最適な金融サービスを提供する

III はたらく人の「働くこと/暮らすこと」の課題解決に向けて、
会員・地域の仲間と協同する

ろうきんSDGs行動指針

2019年3月、全国の〈ろうきん〉の統一的な指針として「ろうきんSDGs行動指針」を策定しました。労金運動を通じた勤労者の生活向上という、〈ろうきん〉の使命を徹底追求することを通じて、SDGs達成に向けた協同組織金融機関としての役割発揮と社会への貢献に取り組んでいます。



勤労者の生涯にわたる生活向上サポート

〈ろうきん〉は、「ろうきんの理念」とそれを実現するための「ろうきんビジョン」に基づき、勤労者のための非営利の協同組織金融機関として、勤労者の生涯にわたる生活向上のサポートに取り組んでいます。〈ろうきん〉は、こうした活動をさらに強化・徹底し、勤労者を取り巻く様々な社会的課題の解決に取り組むことを通じて、SDGsの達成をめざします。

労金運動やESG投資の実践を通じた「意思のあるお金」による社会的好循環の創出

〈ろうきん〉は、勤労者の大切な資金を、勤労者自身の生活向上のための融資や、社会や環境等に配慮したESG投資などに役立てることを通じて、持続可能な社会の実現に資するお金の流れをつくりだしていきます。

非営利・協同セクターとの連携強化による社会課題の解決

〈ろうきん〉は、労働組合・生活協同組合などの会員や労働者福祉に関わる団体、協同組織・NPO・社会福祉法人・社団・財団などの非営利・協同セクター、自治体などとのネットワークを強化し、連携して地域における福祉・教育・環境・自然災害などの社会的課題の解決に取り組んでいます。

SDGsの達成に向けた「共感の輪」の拡大

〈ろうきん〉は、SDGs達成に向けた様々な取組みやその成果を発信し、〈ろうきん〉を利用することがSDGs推進につながっていくことを会員や勤労者など広く社会に伝えることにより、SDGs達成に向けた共感の輪を広げていきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ろうきんがめざす 「人々が支え合う共生社会」

はたらく人を取り巻く社会課題に『共助』『共感』『循環』の3つのアプローチで取り組みを展開し、「人々が支え合う共生社会」の実現をめざします。



3つのアプローチ

ろうきんが特定した社会課題 (SDGs “5つのP” に対応する社会課題)

社会課題

気候変動

少子高齢化

格差問題

人権問題

- 気候変動による災害の頻発
- 老後に対する不安
- 進展するデジタル化への対応
- 育児・介護と仕事の両立
- パート・有期雇用等の不安定な雇用で働く人の増加

etc...



共助

「共助」の活動として、「公助」を補完し、「自助」だけでは乗り越えられない課題の解決を図る



共感

「共感」の輪を広げ、最大化していく



循環

「意思のあるお金」が社会に循環し、よりよい社会づくりに向かう仕組みをつくる



People
—人間—

金融包摂

はたらく仲間が抱える様々な悩みや不安に寄り添う、ろうきんらしい金融包摂の取り組み

金融経済教育

マネートラブルや多重債務に陥らないための金融リテラシー向上の啓発

女性・子育て応援

はたらく女性や家族を応援し、未来を創造するための金融商品・サービスの提供



Prosperity
—豊かさ—

被災者支援

予期せぬ自然災害への備えや被災者の生活再建に向けた包括的な支援

はたらく人の生活支援

良質な金融商品・サービスの提供を通じたはたらく人の生活支援

ディーセント・ワークの実践

ろうきんの役職員がやりがいと責任をもってSDGsに取り組むための職場環境整備



Planet
—地球—

地球環境の保全

地域に根ざした継続的な環境保全活動や未来に向けた環境教育活動



Peace
—平和—

犯罪防止

ろうきんを安心・安全に利用できるための環境整備や金融犯罪防止活動



Partnership
—パートナーシップ—

利用者とともに歩む

ろうきんの利用が社会課題の解決につながる「利用者とともに歩む」仕組みづくり

協同組織や行政との連携

地域で活動する協同組合や行政機関とともに社会課題の解決をめざす連携事業

ESG投融資

環境・社会・ガバナンスを考慮した投融資による持続可能な社会づくり



人々が支え合う 共生社会の実現



誰一人取り残さない 金融包摂

人々が、等しく必要な金融サービスを受けることができる社会



相互扶助

人々が、互いを尊重して、助け合う社会



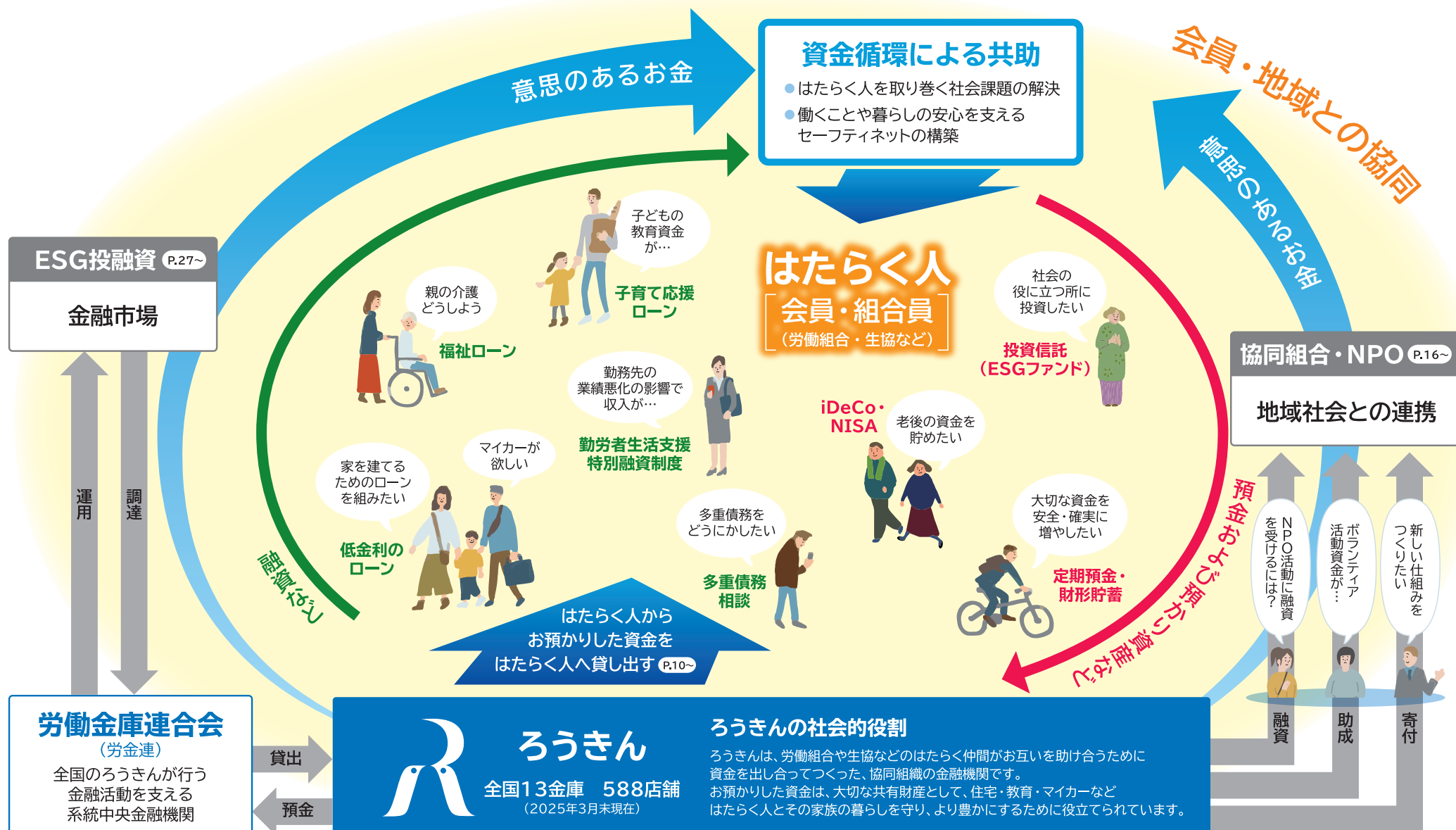
ウェルビーイング

人々が、快適かつ安心に、将来に希望をもって暮らしていける社会

ろうきんの 社会的役割とお金の流れ

ろうきんは、はたらく人からお預かりした大切な資金を、はたらく人自身の生活向上のための融資や、社会や環境等に配慮した投融資に役立てることを通じて、持続可能な社会の実現に資するお金の流れをつくりだしています。

そして、この「意思のあるお金」による社会的好循環を、会員・地域とともに、労働者福祉に関わる団体、協同組合やNPOなどのソーシャルセクター等との協同を通じて、実現していきます。



Cooperatives Build a Better World

協同組合はよりよい世界を築きます

2025国際協同組合年 (IYC2025)とろうきん

ろうきんはIYC2025に賛同しています



2025年は「国際協同組合年」です

国連は、1957年より「国際年」を制定し、平和、人権、開発などの重要テーマについて、各国や世界全体が1年間を通じて理解を深め、取組みや対策を行うよう取り組んでいます。山積する社会の課題に対し、国連は、持続可能な生産と消費、食料安全保障、気候変動対策、地域の人々への医療・福祉、働きがいのある人間らしい仕事の創出、すべての人が参加できる社会づくりなど、様々な分野でSDGsに貢献している「協同組合」を評価し、2025年を「国際協同組合年 (International Year of Cooperatives: IYC)」に決めました。協同組合が国際年のテーマに選ばれるのは、2012年に続き2回目です。

世界に広がる協同組合

協同組合は、19世紀にイギリスで始まり世界各地に広がりました。共通のニーズや願いを持った人同士が自発的に集まり、事業を通してその目的を実現する「**協同組合の思想と実践**」は、国際社会からの評価を受け、2016年11月に**ユネスコ無形文化遺産に登録**されています。

ろうきんも参画する国際協同組合同盟 (ICA) には、104か国から310の協同組合が加盟しており、加盟組織の組合員の総数は10億人に及びます※。

日本においては、農協、漁協、森林組合、生協、共済、労働者協同組合、協同組織金融機関などの協同組合が、相互扶助の精神に基づき地域で助け合いの輪を広げ、事業と活動を通じてSDGsに貢献しています。2012年のIYCを契機に、各協同組合をつなぐ都道府県ごとの連携組織が立ち上がり、業種を超えた協同組合間の連携が深まっています。



※ICA公表 (2025年5月現在)。
2010年より全国労働金庫協会が加盟。

協同組合としてのろうきん



はたらく人とお互いを助け合うために設立したろうきんは、営利を目的とせず、会員自らが平等に運営に参画する協同組織の金融機関です。日本協同組合連携機構 (JICA) のもとで2024年11月に発足した「IYC2025全国実行委員会」には、労金業態を代表して労金協会が参画し、「協同組合のアイデンティティ (定義・価値・原則)」を学ぶイベントや学習会、連続シンポジウムの開催等に取り組んでいます。

2025年2月19日、同実行委員会と国際労働機関 (ILO) 駐日事務所およびICAアジア太平洋地域の共催により開催された「2025国際協同組合年キックオフイベント」では、ビデオメッセージとして労金職員が出演し、助け合いのお金の循環により理念の達成をめざす「協同組合としてのろうきん」をアピールしました。

また、ろうきん全体の取組みとして、「労金業態で働くすべての役職員が、学び、実践し、発信しよう!」をテーマに連続学習会を実施するほか、各ろうきんおよび労金協会の主催・共催によるIYC2025認定・後援事業 (イベント・シンポジウム等) の企画・運営を進めています。



IYC2025全国実行委員会

 WEBサイト



 YouTube



TOPICS 協同組合の価値を未来へ紡ぐ、学びと連携の場

ろうきんは、協同組合の原点に立ち返り、未来とともに築く次世代人材の育成に力を注いでいます。その一環として、2023年度より、こくみん共済 coop が主催する「マスターコース “キャンプ”」に参画。こくみん共済 coop・JA共済連とともに、若手・中堅職員が二宮尊徳、賀川豊彦、大原幽学といった歴史的人物や、地域における協同組合間連携の実践事例についてフィールドワークを通じて学び、協同組合の価値や使命を再認識する機会を提供してきました。

ろうきんからは、連合大学院生とRRRプログラム(ろうきんリーダーシッププログラム)参加者から延べ10名が参加し、役員との対話やJCAによるワークショップを通じて視野を広げています。2025年度には、労金協会主催の理念研修において、こくみん共済 coop との合同プログラムも予定されており、人材育成を軸とした協同組合間連携の広がりが期待されます。SDGsが掲げる持続可能な社会の実現に向けて、協同の人づくりの輪はいま、着実に広がりつつあります。



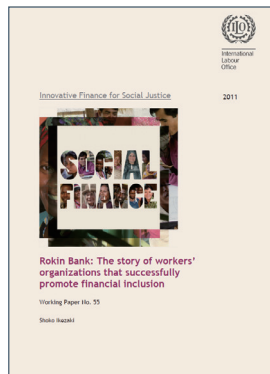
「協同の源流にふれる」大原幽学ゆかりの地で学ぶ、次世代リーダーたちのまなざし

TOPICS 国際労働機関 (ILO) による評価



金融包摂や持続可能な開発、ディーセント・ワークに取り組むろうきんの実践は、国際労働機関 (ILO) 発行の報告書やレポートとして世界に発表され、「日本の労働金庫のユニークな経験は、勤労者への金融アクセス拡大を願う労働組合、金融機関、その他の団体に素晴らしいひらめきをもたらすもの」※と評価されています。

※「Social Finance Working Paper No.76」9.結論 (2019年)



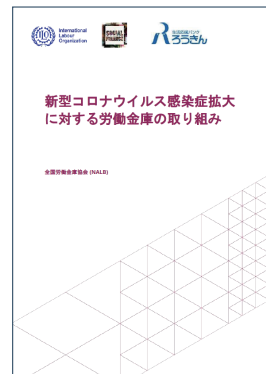
2011

ILO Social Finance Working Paper No.55「労働金庫：フィナンシャル・インクルージョンを推進し、成功を収めている労働者組織の物語」



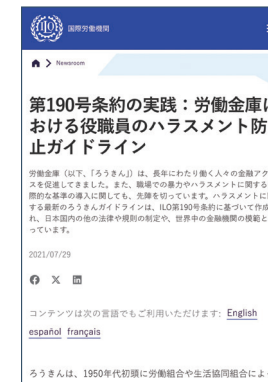
2019

ILO Social Finance Working Paper No.76「労働金庫：日本において70年にわたり勤労者の金融アクセスを強化することで、包摂的な社会を構築してきた取り組み」



2020

ILO金融包摂レポート「新型コロナウイルス感染症拡大に対する労働金庫の取り組み」



2021

ILO社会的金融部ニュースレター「第190号条約の実践：労働金庫における役職員のハラスメント防止ガイドライン」



2023

ILO-ろうきん共催フォーラム『「助けて」といえる社会をつくる～社会正義の実現に向けて～』



全国のろうきん

行政と連携した求職者や職業訓練生の支援（福祉金融の発揮）

全国のろうきんは、行政と連携した提携融資等を通じて地域の勤労者への支援を展開しています。

「求職者支援資金融資制度」※は、国の求職者支援制度による職業訓練受講給付金のみでは訓練受講中の生活費等が不足する方を対象に、低利の融資を行う制度です。厚生労働省の要請を受け2011年10月より取扱いを開始し、都道府県労働局・ハローワークとの連携により、円滑な職業訓練の受講や再就職を支援しています。

また、成績が優秀であるにもかかわらず、経済的な理由により公共職業能力開発施設等の行う職業訓練を受けることが困難な訓練生で、厚生労働省の定める資格要件を充たす方を対象に、2011年5月より訓練期間中の生活費や授業料等に充当できる「技能者育成資金融資制度」※を設けています。

※ご利用にあたっては、一定の条件があります。詳しくは各ろうきんまでお問い合わせください。



出典：厚生労働省ホームページ

全国のろうきん

多重債務やマネートラブルから働く人の生活を守る取組み

全国のろうきんでは、年代別のライフプランセミナーをはじめ、多重債務防止に向けた啓発活動や個別相談活動、高金利のカードローン等からろうきんの低利なローンへの借換えによる可処分所得の向上等に取り組んでいます。

労金協会は、2024年4月、啓発冊子『マネートラブルにかつ!』※の第7版を発行しました。各金庫の要望を踏まえ、若年層・高齢者層の消費者被害、成年年齢の引き下げ、多重債務問題の動向、銀行カードローン問題や奨学金問題の補強等を反映し、動画コンテンツと連動した構成となっています。



ろうきん
ブランドサイト/
「あなたの身近に潜む
マネートラブル」



多重債務への取組状況（2024年度）

相談受付件数：1,330件／相談受付金額（負債額）：74億6,786万円

※本冊子は、2005年の初版より400万部以上が発行され、全国の企業・労働組合・自治体・教育現場等で広く消費者教育の教材として活用されています。

中央ろうきん

緊急時におけるセーフティネットとしての役割発揮「緊急生活応援ローン」の取扱い

中央ろうきんは、勤務先企業の事情または新型コロナウイルス感染症の影響による収入減少等が発生した際に、当面の生活資金としてご利用いただける「緊急生活応援ローン」※の取扱いを行いました。

本制度は、勤務先企業の事情による賃金・一時金の切り下げ（賃金カット）もしくは賃金遅欠配、コロナ禍での収入減少等に対する緊急的な措置として、利用に係る協定書を会員団体と締結し実施しました。また、既往融資の返済条件見直しの相談対応など、会員団体の実情に合わせて、必要な生活支援策を実施しています。

2024年度実績（2024年4月～2025年3月末）

「緊急生活応援ローン」 実行件数：376件（実行額：3億1,403万円）
既往融資の返済条件見直し 有担保：379件、無担保：144件



※ご利用にあたっては、一定の条件があります。詳しくはろうきんまでお問い合わせください。

また、「新型コロナウイルス感染症を起因とした収入減少」による取扱い、2024年度を以って終了しました。
※チラシ画像はイメージです。

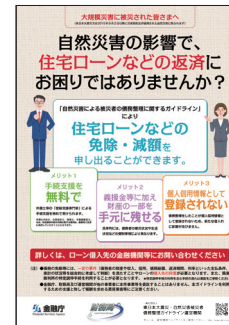
全国のろうきん

自然災害から働く人の生活を守る取組み

全国のろうきんでは、災害救助法の適用を受けた自然災害により被災されたご本人およびご親族の災害復旧等に必要な資金にご利用いただける低利な「災害救援ローン」※（無担保・固定金利）をご用意しているほか、会員団体等が行う自然災害の義援金振込口座への送金に係る為替手数料の免除措置を設けています。

また、被災され住宅ローン等の返済が困難な方には「自然災害による被災者の債務整理に関するガイドライン」に基づいた対応（住宅ローンなどの免除・減額）を行っています。

※ご利用にあたっては、一定の条件があります。詳しくは各ろうきんまでお問い合わせください。



九州ろうきん・全国のろうきん

奨学金問題への取組み

全国のろうきんでは、会員および労働者福祉協議会と連携し、貸与型奨学金の返済負担の軽減に取り組み、奨学金の返済で悩みを抱える方のご相談受付や、低利な「教育ローン」※や「奨学金借換ローン」※への借換え等の提案を行っています。

九州ろうきんでは、奨学金返済困窮者に対する相談窓口を設置しているほか、奨学金の毎月返済額や返済期間の見直し等の多様なニーズに応えるために、通常教育ローンよりも低利な奨学金借換専用ローン「つなぐ」※の取扱いを2018年4月より開始しました。福祉金融機関としての社会的役割を發揮し、奨学金返済を抱える方を支援するため、労働者福祉南部ブロック協議会（沖縄県を除く九州各県の労福協）と連携した取組みを行っています。

※ご利用にあたっては、一定の条件があります。詳しくは各ろうきんまでお問い合わせください。



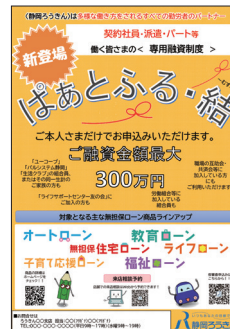
静岡・東北・新潟・北陸・沖縄ろうきん

契約社員・派遣・パート等として働く皆さまの専用融資制度「ぱあとふる・結(むすぶ)」の取扱い開始

静岡ろうきんは、現代の多様な働き方をされる労働者のニーズに応える融資制度として、2025年1月より「ぱあとふる・結(むすぶ)」※の取扱いを開始しました。

本制度は、契約社員・派遣・パート等として働く皆さまの専用融資制度です。静岡ろうきんが取り扱う無担保ローン（オートローン、教育ローン等）に原則ご本人さまだけでお申込みいただけます。制度の名称には、多様な働き方をされる労働者のパートナーとして、はたらく仲間のご縁を結んでいけるようにとの願いがこめられています。

なお、東北・新潟・北陸・沖縄の各ろうきんにおいても、会員のパート・有期雇用等で働く方を対象とする各種融資制度※を取り扱っています。



2024年度実績（2025年1月～3月末）

「ぱあとふる・結(むすぶ)」 実行件数：**60件**（実行額：**8,770万円**）

※ご利用にあたっては、一定の条件があります。詳しくは各ろうきんまでお問い合わせください。

沖縄・新潟・静岡・中国・四国ろうきん

働きながらの不妊治療等を支える妊活サポートローン「Hug-Kumi(はぐくみ)」の取扱い

沖縄ろうきんは、不妊治療および不育症に関する治療費等を対象としたカードローン「Hug-Kumi(はぐくみ)」※を提供しています。本制度は、不妊治療に関連する諸費用の負担軽減を金融面からサポートする融資商品です。沖縄ろうきんでは、不妊治療に関する職員研修を実施し、相談や申込がしやすい体制を整備するとともに、職場等で不妊治療への理解を深めるリーフレットを制作するなど、不妊治療に取り組む方が安心して働き続けられる職場環境づくりに取り組んでいます。

なお、新潟・静岡・中国・四国の各ろうきんでも、不妊治療費等をサポートする融資商品を取り扱っています。



妊活サポートローン「Hug-Kumi(はぐくみ)」実績／2024年度

新規件数：**13件**（新規契約額：**1,700万円**）

※ご利用にあたっては、一定の条件があります。詳しくは各ろうきんまでお問い合わせください。

近畿ろうきん

「社会貢献預金(笑顔プラス)」の取扱い

近畿ろうきん「社会貢献預金(笑顔プラス)」※は、預金者の寄付負担（金利引き下げ分の利息相当額）と近畿ろうきんからの拠出金の合計額を、NPO・市民団体に寄付する定期預金です。

定期預金の店頭表示金利より金庫所定の金利（0.1%）を引き下げた金利を適用金利とし、その利息相当額を「お客様の寄付額」とみなして、ろうきんからの拠出金と合算のうえ近畿圏内12のNPO・市民活動団体へ寄付します。2025年6月の寄付金は総額約1,153万円となり、2018年度からの累計寄付総額は2,837万円となりました。



「社会貢献預金(笑顔プラス)」実績／2025年6月寄付分

残 高：**131億9,683万円**（2025年3月31日現在）
寄付金額：**11,533,986円**

※ご利用にあたっては、一定の条件があります。詳しくはろうきんまでお問い合わせください。

近畿ろうきんHP /
社会貢献預金
(笑顔プラス)



令和6年能登半島地震等により被災された方への支援策

令和6年能登半島地震および奥能登豪雨により、甚大な被害を受けられた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

全国のろうきんでは、被災された方の生活再建と被災地の復興を支援するため、義援金の受付や特別支援融資など、様々な支援活動を進めています。



北陸ろうきん

能登半島地震および奥能登豪雨への対応と復興応援定期預金「結(ゆい)1・2」の発売

北陸ろうきんは、被災されたお客様への支援策として、「災害救援ローン」※の取扱いや、すでに融資をご利用いただいている方々に対する特別措置（返済期間の延長による返済額の減額・元金据置等）のほか、特に被害が大きかった輪島支店において臨時相談窓口を開設するなど、被災地域への金融支援の役割発揮に努めてきました。

2024年3月には、震災の早期復興を目的に住宅ローンの融資金利特別引下げ項目を新設し、さらに10月からは奥能登豪雨罹災に係る住宅ローンについても同特別引下げの対象としています〔令和6年能登半島地震復興特別引下げ（令和6年能登半島地震および奥能登豪雨）※〕。

また、2024年6月から2025年1月まで発売・募集を行った復興応援定期預金「結(ゆい)1」「結(ゆい)2」では、2025年3月、預金残高に応じた義援金として総額900万円を富山県、石川県、日本赤十字社福井県支部に寄付しました。

その他、営業店窓口での募金活動を実施し、総額285,035円を北陸3県の日本赤十字社へ寄付しました。

※ ご利用にあたっては、一定の条件があります。詳しくはろうきんまでお問い合わせください。
※ チラシ画像はイメージです。



新潟ろうきん

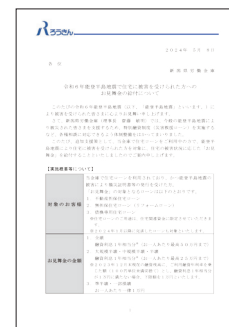
能登半島地震で住宅に被害を受けられた方へのお見舞金の給付

新潟ろうきんは、能登半島地震により被災された皆さまを支援するため、特別融資制度（災害救援ローン）※1を実施するなど、各種相談に対応できるよう体制整備を図ってきました。

2024年5月には、追加支援策として、新潟ろうきんで住宅ローンをご利用中の方で、能登半島地震により住宅に被害を受けられた方を対象に、住宅の被害状況に応じた「お見舞金」の給付を開始し、2024年12月までに、所定の申請手続きをされた681名のお客様へ合計2,299万9千円のお見舞金をお支払いしました※2。

なお、新潟ろうきんでは、2004年の新潟県中越地震以降、新潟県内に大規模な被害を及ぼした災害において同様の支援策を実施しており、過年の災害を含むお見舞金の支払実績は、合計5,203名、約1億2,200万円となりました。

※1 ご利用にあたっては、一定の条件があります。詳しくはろうきんまでお問い合わせください。
※2 取扱いはすでに終了しています。



東北ろうきん

義援金の受付と能登半島地震「復興支援定期預金」の取扱い

東北ろうきんは、令和6年能登半島地震により甚大な被害を受けた被災地域や被災された方の復興支援に向けた取組みとして、2024年9月5日、特に被害の大きかった石川県に対し、義援金1,000万円の寄付を行いました。

義援金は、東北ろうきんの全営業店に設置した募金箱、ならびにお振込により会員、利用者の皆さまよりお預かりした義援金（約52万円）に加え、2024年3月から7月まで取扱いした「復興支援定期預金」への預入額（約22億4,800万円）の0.1%相当額に東北ろうきんからの拠出金を合わせ、お届けしたものです。

本取組みの実施にあたっては、東日本大震災において東北の被災地に寄せられた全国からの温かいご支援に対する恩返しの意が込められており、その主旨に多くの会員、利用者の皆さまから賛同をいただきました。



Let's create our future

「ろうきんLab」の発足

ラボ

労働金庫の新たな事業モデルの開発をめざす研究活動

労金協会は、2024年4月、労働金庫の新たな事業モデルの開発をめざす研究活動「ろうきんLab（ラボ）」を発足しました。

「ろうきんLab」は、労働金庫および関連会社・団体で働く職員が、誰でも参加できる業態の横断的な活動です。これからの労働金庫の事業や魅力づくりを生み出す、先行的・試験的な取り組みとして、地域を越えて職員がアイデアを出し合い、イノベーティブな事業を創発するプラットフォームをめざしています。

「ろうきんLab」の事業モデル開発は、「地域における多様な連携による課題解決」（「つながり」による課題解決）を基本と

しています。初年度となる2024年度は、パイロット参加金庫を中心に、①本取組みの趣旨や進め方に関する説明、②金庫のニーズを把握するための対話、③人材育成や情報交流を通じた知識習得等に取り組みしました。また、「情報交流会」や「公開研究会」の開催を通じて業態内外との情報共有・意見交換を行いました。



共生社会の実現と未来の労働金庫を創造するために、職員が「参加し・つながり・対話する」業態のプラットフォームをイメージしています。

「ろうきんLab」の5つのテーマ

2024年度は、「パイロット参加」として6金庫（北海道・中央・新潟・東海・近畿・九州ろうきん）が参加し、選択した各テーマに関わる事業モデルの開発に向けた取組みを進めました。

1
地域連携

生協との連携による「グッドマネー運動」と地域基盤の拡大
協同組合間協同により、よりよいお金の循環をめざす「グッドマネー運動」の実践と社会課題の解決を通じて組合員の生活向上を図る。

2
就労支援

つながりインターンシップ（就労支援）
協同組合やNPOなど非営利協同セクターの多様な連携により、家計・生活相談、退職後のセカンドキャリアを支援するしくみづくりをめざす。

3
課題解決

社会的金融の実践に向けた支援ネットワークの構築
社会課題の解決に取り組むソーシャルビジネスへの金融支援と、専門家ネットワークの構築による、福祉金融機関としての役割発揮をめざす。

4
相談機能

「アルムナイネットワーク」の構築による地域相談機能の拡充
地域における相談機能・拠点の拡充をめざし、経験豊かな退職人材（アルムナイ）によるネットワーク構築をめざす。

5
金融支援

働き方の多様化と労金利用に関わる整備
フリーランス、ギグワーカーなど、多様な働き方の現状や支援ニーズを把握し、すべての働く人への金融アクセスを円滑にするための制度整備を図る。

開催報告

「ろうきん公開研究会」

～共生社会の実現と労働金庫の新たな事業モデルの開発に向けて～

労金協会は、2024年12月3日、「ろうきん公開研究会」を開催しました。

本研究会は、各分野の有識者・実践者の方々から、労働金庫の新たな事業モデルの開発や非営利協同セクター等との関係強化、「国際協同組合年」を見据えた労働金庫の価値・認知度の向上に対する意見・助言を広く伺うことを目的として企画したものです。当日は、全国のろうきん・中央機関等の役職員のほか、行政、協同組合、研究者、専門家など、127名が参加しました。

研究会では、パイロット参加金庫を代表して北海道・九州ろうきんより報告を行ったほか、「社会的金融の実践に向けたろうきんの役割」「共生社会づくりとろうきんの事業開発」の2つのテーマについて、多角的な視点から意見交換を行いました。

報告者 九州労働金庫 企画部経営企画課 代理 穴井将貴 氏
北海道労働金庫 地域共生推進室 室長 横田恵治 氏
労働者協同組合
ワーカーズコープ・センター事業団
北海道事業本部 本部長 石本依子 氏



登壇者 日本大学商学部 教授 長谷川 勉 氏
明治大学経営学部 教授 小関 隆志 氏
法政大学大学院 公共政策研究科 教授 伊丹謙太郎 氏
日本労働者協同組合連合会 理事長 古村 伸宏 氏
ワーカーズ・コレクティブネットワークジャパン 代表 藤井 恵里 氏
(一社)くらしサポート・ウィズ 理事長 吉中由紀 氏
連合 総合運動推進局フェアワーク推進局 局長 小林 妙 氏
特定非営利活動法人日本NPOセンター 事務局長 吉田 健治 氏
日本政策金融公庫 創業支援部 グループリーダー 玉 木 舞 氏



Social Report

お預かりした資金の一部は、働くことや暮らしの安心を支える
ソーシャルセクターへの融資等に活用されています。

CampingSpecialist労働者協同組合 東海ろうきん

放置された山林を、地域の災害時拠点へ ——火を学び、仕事をつくる多機能キャンプ場——

三重県四日市市で、荒廃した山林を整備し、キャンプ場としてよみがえらせた「CampingSpecialist労働者協同組合」。
遊びから始まった挑戦は、地域の防災対策や仕事づくりにも応える協同労働の拠点へと発展しています。
参加する人が楽しみながら地域課題を持続可能に解決する、その取組みと展望について、発起人の樋口龍馬さんに聞きました。



荒廃山林からはじまった、 「俺たちのキャンプ場」づくり

「四日市市にはテントを張れる場所が無い——。それなら、自分たちで遊び場をつくらうと、土地探しから始めました」



開拓前の荒廃した山林

CampingSpecialist労働者協同組合（労協）の発起人を務める樋口龍馬さんは、“野営好き”のメンバーと活動を始めた当時から始まった。候補となったのは、土地開発公社の解散に伴い行政が引き取った、1万4,400平米の荒廃山林。遺跡が埋まり、開発制限があるこの土地は、「立ち枯れた木や竹、下草が繁茂し、不法投棄のゴミも目立つ。重機を入れるスペースさえない状態だった」といいます。

行政から正式に土地を借りるため、2021年にNPO法人を設立。鎌や電動ノコギリを手に、重機を自分たちで運転し、少しずつ森の整備を進めます。開拓を手伝いたいという仲間の輪も広がり、9か月後にはキャンプ場として初の来場者を迎えました。しかし、活動が広がるにつれ、参加する人の価値観の違いや、法人としての財産管理などの課題が浮き彫りになります。

そこで出会ったのが、働く人が自ら出資し

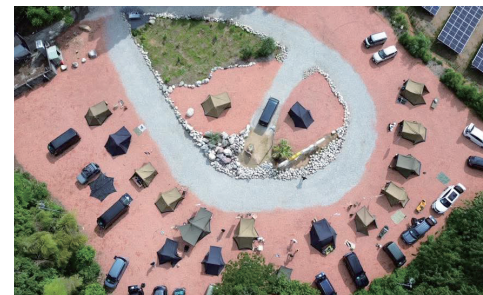
て平等に運営に参画し、話し合って事業を行う「協同労働」です。樋口さんは、「集まる仲間全員と原則労働契約を結ぶうえ、出資も必要ですが、利益を仲間で分配することも可能。当事者として一緒に働く仲間の志を揃えやすく、働きがいにもつながる」と、労協の魅力を語ります。そこで、NPOを残しつつ、2022年10月の「労働者協同組合法」の施行に合わせて「CampingSpecialist労働者協同組合」を設立。全国で第1号となる労協法人としての活動が始まりました。

火に触れ、楽しく備える 「火育」の場

活動の原点にあるのは、東日本大震災での被災地支援の経験です。現在の中核メンバーは、青年会議所をきっかけに知り合った経営者や代表者などであり、支援物資を集めて女川へ届けた仲間でもあります。「当



整備中のようす。開拓から管理・運営まで、自分たちの手で担う



整備後のキャンプ場。果樹園やイベントスペースも備える

時、ついたてもない体育館で過ごす、避難生活のつらさを目の当たりにした」と樋口さん。平時のキャンプとは対照的な現実には直面し、キャンプ場を“災害時の拠点”として整備する構想が生まれます。

「現代の子どもたちは、火の熱さや危険さを知らないことも多い。野営の入門として、火に触れることを楽しんで覚える、生きる力を育む場所が必要だと話し合いました。私たちはそれを『火育（ひいく）』と呼



近隣保育園との提携により、たき火体験を楽しむ園児たち



キャンプ場の場内マップと井戸水を活用したプール

んでいます」

現在では、約8,000平米の敷地に61組のテントサイトを備え、発電機も配備。四日市市と協定を結び、災害時には最大300人の避難者を受け入れる計画です。清潔に整備されたキャンプ場は、市街地から車で約20分の立地の良さも魅力となり、家族連れからソロキャンパーまで年間約8,000人が利用する人気の施設に成長し、地域の賑わいも生み出しました。

融資制度の利用が、組織の信用につながる 災害時拠点としての機能を拡充

利用者の増加に伴い必要となったのが、スタッフが予約状況を確認・共有する仕組みです。

「金融機関との取引＝信用の裏付け。私たちは経営者が集まった組織なので、融資を受けて返済できる組織であるべきだという意識が根本にある」と樋口さん。そこで、2024年3月、樋口さんが運営する別のNPO法人のメインバンクだった東海ろうきんの設備資金融資を活用し、オリジナルの場内マップから予約状況が可視化できるシステムを開発。それまでの手書き管理から手元端末での作業が可能になり、キャンプ場

の巡回にも活用できるなど、スタッフにも好評です。さらに、同年9月には、再び東海ろうきんの融資を活用し、地下水源につながる井戸を設置。自家発電で浄化槽やポンプを稼働させ、停電や断水が起きても安心して使用できる、災害対応トイレの整備計画を進めています。

「水と衛生の問題に対応することで、災害復旧の基地としての活用も可能になります。緊急時の拠点として整備しながら、平時は野営体験を楽しむキャンプ場として運用する、多機能な場所へと育てています」

好きなことを仕事に変える ——協同労働が描く未来

「俺たちのキャンプ場」のもう一つの特徴が、セカンドキャリアを醸成する場としての可能性です。キャンプ場の運営は労協、ボランティアの受け入れ等の非営利活動はNPO、物販等の収益事業は株式会社と、3つの団体が連携することで、様々な人の多様な関わり方を実現しています。例えば、「キャンプ場を利用した方がリピーターとなりNPOのスタッフとなる」ケースや、「NPOのボランティアとして関わっていた方が定年後の働く場として労協への加入を希望する」ケースなどがあるといいます。

樋口さんたちは、荒廃した土地を持続可能で愛される土地として再生する取組みを進めています。すでに3つの地域で新たな労協を立ち上げ、2023年には全国初の労協連合会も設立しました。開発した予約システムは連合会の加盟団体に提供され、仲間づくりとノウハウの共有が進んでいます。

「全国にうちのようなキャンプ場が増えたらいいですね」と語る樋口さん。「特に65～70歳の方たちの生きがいや働きがい、ディーセント・ワークをどのように実現するか。労協は、その一つの要素になるはずです。私たちのように野営好きの人たちが、地域課題に対して協同労働の仕組みを活用し、楽しみながらキャンプ場を運営してくれたら」と、未来を描きます。

協同労働のキャンプ場が生み出す新たな地域振興のモデルが、四日市から全国へと広がっています。



星空も美しい夜のキャンプ場

団体情報

CampingSpecialist労働者協同組合

法人事務所 三重県四日市市平尾町2800番地2
法人設立日 2022年10月17日
事業内容 キャンプ場の開発・運営

WEBサイト



俺たちのキャンプ場

所在地 三重県四日市市
水沢町字砂4579-7

Instagram



東海ろうきん

東海ろうきんでは、東海3県（愛知・岐阜・三重）のNPO法人や労働者協同組合、社会福祉法人など、社会的課題に取り組む非営利法人を支えるために「ソーシャルビジネスサポートローン」を実施しています。2024年度には、ご利用団体も13先18件に上りました。それに伴い、営業店にて職員向けに理解度向上を目的とした研修を実施し、ソーシャルビジネスへ寄り添える環境づくりを進めています。



東海労働金庫
営業統括部 生涯サポートセンター
（ソーシャルビジネス担当）
矢野 裕彦さん

地域社会との連携

ろうきんは、“ろうきん”だけでは解決できない、はたらく人の「働くこと／暮らすこと」に関わる社会的課題の解決に向け、会員・地域と協同し、はたらく人の“安心できる暮らし”の実現をめざしています。



1 ろうきんの利用が社会課題の解決につながる仕組みづくり

ろうきんの商品・サービス等の利用に応じた寄付・助成制度

北海道ろうきん

つなぐプロジェクト

北海道ろうきん「つなぐプロジェクト」は、会員・推進機構と〈ろうきん〉が一体となり、お取引件数に応じたNPOなどへの寄付を通じて、地域における共生社会の実現をめざす取組みです。会員・推進機構と同じ志をもって各地域で活動する非営利団体と連携し、金融面でのハブ機能の発揮を通じて「持続可能な共生社会の実現」に寄与しています。



北海道ろうきんHP/
「つなぐプロジェクト」



寄付金額：総額10,867,000円（取組期間：2024年4月～2025年3月末）

- 寄付先** 各店・出張所推進委員会等が選定した54団体（非営利団体等）
- 寄付先** 預金・融資・各種サービス（非対面取引等）・NPOとの連携（融資相談・口座開設）等の各取引に応じ、1件あたり1円～1,000円を北海道ろうきんが拠出

四国ろうきん

四国ろうきん「ピンクリボン運動」

四国ろうきんは、「女性が健康で長く働くことができる社会づくり」に貢献するために、乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切さを伝える「ピンクリボン運動」への支援に取り組んでいます。

具体的には、四国ろうきんATMを利用した支払件数（ろうきんカードおよび他行カードの利用件数）とろうきんアプリ契約件数1件につき1円を四国ろうきんが負担し、「ピンクリボン運動」を実施する四国地区の（公財）日本対がん協会のグループ組織に寄付を行います。

2024年度の実施期間（2024年2月～2025年1月）における寄付金額は683,144円となり、制度発足後13年間の累計寄付金額は1,141万円となりました。



長野ろうきん

はたらく女性を支援する取組み

長野ろうきんは、はたらく女性の支えになりたいとの思いから、女性職員による女性応援プロジェクトを立ち上げ、2013年10月、「わたしの積立ろうきんchou-chou（シュシュ）」の取扱いを開始しました。現在は「ろうきんchou-chouシリーズ」として3種の積立預金商品と2種のローン商品※を取り扱っています。

本取組みでは、同シリーズ積立商品の年間積立合計の0.05%、ローン商品の年度末時点での利用残高の0.05%を長野ろうきんが拠出し、（公財）日本対がん協会「ほほえみ基金」へ寄付を行う「ろうきんchou-chouハートフルプロジェクト」にも取り組んでいます。

2024年度は807,825円の寄付を行い、これまでの寄付総額（2013年度～）は14,916,528円となりました。

※ご利用にあたっては、一定の条件があります。詳しくはろうきんまでお問い合わせください。



北陸ろうきん

環境保護に取り組む北陸3県の自治体への寄付

北陸ろうきんは、森林保護やCO2排出量の低減を目的に、ペーパーレス化を通じた各自治体への寄付に取り組んでいます。

口座残高や入出金明細の照会等をインターネットよりご確認いただける「ろうきんアプリ」1件につき35円、「通帳レス口座」の成約件数1件につき20円、「現金封筒」削減枚数1枚につき0.5円を北陸ろうきんが拠出し、北陸3県の自治体（環境保全担当部署）へ寄付します。

2025年3月、2024年度の実施期間分として総額60万円（各地区20万円）を寄付しました。寄付金は、各自治体の里山里海保全活動等に活用されます。

寄付金額：総額60万円

- 寄付先** **【富山地区】** 富山県農林水産部森林政策課
- 【石川地区】** 石川県農林水産部里山振興室
- 【福井地区】** 福井県エネルギー環境部環境政策課（環境ふくい推進協議会）

北陸ろうきん

「可処分所得向上運動」を通じた
「こども食堂」支援の取組み

北陸ろうきんは、働く人のゆとりある豊かな暮らしの実現に向け、可処分所得向上をめざしたローン借換え運動に取り組んでいます。

本運動では、ろうきんSDGs行動指針に基づく社会貢献活動の一環として、借換ローンの成約件数1件につき1,000円を北陸ろうきんが拠出し、こども食堂を支援する北陸3県の団体へ寄付する取組みを行っています。

2025年3月、地域の子どもたちを支援する北陸3県のこども食堂連携団体へ総額105万円（各地区35万円、2024年度取組み分）を寄付しました。

寄付金額：総額105万円

寄付先

- 【富山地区】 富山県子どもほっとサロンネットワーク
- 【石川地区】 認定NPO法人いしかわフードバンク・ネット
- 【福井地区】 こども食堂ネットワークふくい



近畿ろうきん

「教育ローンde子育て応援プロジェクト
(近畿ろうきんNPOアワード)」の実施

近畿ろうきん「教育ローンde子育て応援プロジェクト」は、教育ローンの前年度新規ご利用額に応じた金額〔新規融資実行額の0.05%相当（最大250万円）〕を近畿ろうきんが拠出し、近畿圏内で地域の子育て支援活動に取り組むNPO法人やボランティア団体を助成する仕組みです。

教育ローンのご利用を通してお子さまの夢を応援する親の思いが、各地域で子育て支援に取り組む団体の応援につながり、子育て支援の輪が地域全体に広がることをめざしています。

2024年度は66団体の応募の中から8団体が受賞され、総額200万円を助成しました。本取組みの2006年度からの助成総額は、延べ204団体・4,506万円となりました。



近畿ろうきんHP/
教育ローンde
子育て応援プロジェクト



中国ろうきん

私たちの地域を私たちでつくる
～100円からできるボランティア～
「中国ろうきんNPO寄付システム」

中国ろうきんは、NPOを支えることが働く人とその家族、そして誰もが安心して暮らせる地域社会づくりにつながると考え、寄付者であるお客様と地域社会の課題に取り組むNPOを結ぶ「NPO寄付システム」（寄付は毎月100円からの口座振替・手数料不要）を継続して提供しています。

各県で集まった寄付金は、中国各県で活動するNPOに寄付配分される、「助け合い」のろうきんならではの地域循環型寄付システムです。19の活動分野に「おまかせコース」を加えた20コースから寄付先分野をご選択いただけます。

2024年度は、4,447,265円の寄付をいただき、運営団体である各県NPO中間支援団体に審査選考された59団体に、合計344万円が配分されました※。

※災害支援緊急配分を含みます。



新潟ろうきん

定期預金の預入件数に応じた新潟ろうきん福祉財団の
高校奨学金給付事業への寄付

新潟ろうきんは、〈意思のあるお金の循環〉を通じた「地域での福祉活動」に係る取組みとして、2024年度より、定期預金の新規預入件数に応じた社会貢献活動を行っています。

具体的には、子どもたちの明るい未来に寄与することを目的に、定期預金（積立型預金を除く）新規預入1件につき300円を新潟ろうきんが拠出し、（公財）新潟ろうきん福祉財団の高校奨学金給付事業に寄付しています。年間の寄付金額は、奨学生10名分に当たる360万円（奨学金月額1万円×36ヵ月）を上限とし、2024年度の取組みに応じた寄付金額は360万円となりました。

本取組みを通じて、同財団の奨学金給付事業をより広く周知し、多くのご賛同をいただけるよう、2025年度から、対象のお取引を拡大し取り組んでいます※。

※定期預金の新規預入および積立型預金（財形貯蓄・エース預金）の新規・増額1件につき150円を新潟ろうきんが拠出
【寄付金額の年間上限：360万円、対象のお取引24,000件分】



全国のろうきんでは、ろうきんの理念に基づく共生社会の実現に向けて、NPOやボランティア団体への助成・支援に取り組んでいます。



東北ろうきん

大学生ボランティア活動向け
助成金制度「未来へのタスキ」

東北ろうきん「未来へのタスキ」は、東北の地域を支える大学生を応援するため、東北ろうきん20周年を記念し2023年に新設した助成金制度です。東北6県の4年制大学に所属する学生から構成され、ボランティア活動や社会貢献活動を行う団体へ総額200万円（1団体上限10万円）を3年間継続して助成します。2024年度は、応募32団体の中から20団体へ総額192.3万円を助成しました。

また、2024年8月には、2023年度の助成団体を対象に「活動報告会」を開催し、学生有志プロジェクトメンバーの企画による①学生ボラ見本市、②ワークショップ（パワード作成）、③グループ討議を実施しました。



四国ろうきん

地域と協働した社会貢献活動
四国ろうきん「助成金制度」

四国ろうきんは、地域と協働した社会貢献活動として、2002年度より「助成金制度」を創設し、地域社会の福祉の向上に取り組んでいます。

本制度は、社会福祉、高齢者問題、文化や国際交流などの「福祉活動」を対象とし、非営利で公共性の高い活動をしている団体に対し、応募申請をもとに審査・選定し、助成金を贈呈する制度です。

2024年度は、四国4県で活動するNPO法人・社会福祉法人・その他住民の福祉の増進を図ることを目的とする団体など20団体に対し2,767,000円の助成を行いました。

制度開始以来23年間の助成総額は、延べ565団体・総額92,377,820円となりました。



沖縄ろうきん

高校生・大学生に向けた
地域活動・社会活動支援策
「ろうきん・あといっぱいプロジェクト」

沖縄ろうきん「ろうきん・あといっぱいプロジェクト」は、沖縄・地域のために何かしたい高校生・大学生の活動を応援する助成金制度です。社会人より活動資金を得ることが難しい学生へ資金支援を行うことで、学生自身が活動を通じて得られる知識や経験の広がり、沖縄の地域活動・社会活動のさらなる活性化を期待します。

2024年度は、地域の小学生を対象とするものづくり体験教室や、生理の貧困について考えるイベント等を計画する12グループ（高校生6グループ、大学生6グループ）を選出し、総額100万円を助成しました。また、各学校で開催した贈呈式では、助成への感謝とともに学生たちの今後の活動に対する意気込み等が寄せられました。



全国のろうきん

「〈ろうきん〉働く人と子どもの
明日を応援プロジェクト」の実施

「〈ろうきん〉働く人と子どもの明日を応援プロジェクト」は、金融の枠組みを通してだけでは解決しにくい、手が届きにくい社会的課題の解決に向け、2024年度より労働金庫連合会（労金連）が実施する寄付制度です。全国の〈ろうきん〉が一体となって、働く人が直面する子育てや介護、疾病治療等との両立に係る課題や、低所得・生活困窮状態の勤労者の生活・子育てに係る課題等を解決する地域の活動を応援しています。

本プロジェクトでは、各ろうきんがプロジェクトの支援の対象となる団体を選定し、労金連がその活動資金を支援します※。2024年度は、56団体へ総額2,860万円の寄付を行いました。

※各ろうきんによって、本プロジェクトの取扱いや推薦する団体の募集方法、スケジュール等は異なります。



＼労金連HP/
働く人と子どもの
明日を応援プロジェクト



2 会員・地域との協同

地域が抱える様々な社会課題の解決に向けて、ともに取り組む連携事業

北海道ろうきん

労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団との連携

北海道ろうきんは、2025年2月18日、ワーカーズコープ・センター事業団北海道事業本部と「相互連携協力の推進に関する協定書」を締結しました。この協定は、相互に協力可能な分野における連携・協力を行うことで持続可能な共生社会の実現に向けた取組みを展開し、地域再生・まちづくりに寄与することを目的とするものです。

今後は、ワーカーズコープの全道16カ所の事業所を訪問し、北海道ろうきん本部・営業店との意見交換を実施します。また、パイロットエリアを選定し、ワーカーズコープ組合員へのろうきん学習会を通じた資産形成・可処分所得向上の取組みも展開していく予定です。



主な連携事項

- ①循環型地域づくりに関する連携
 - ②組合員への金融面での福利厚生支援
 - ③合同での調査研究の実施
- 他

長野ろうきん

「運営委員会」自主活動による地域・社会活動の取組み

長野ろうきんの各営業店では、営業店ごとに設置された「運営委員会」の企画・運営による地域に根ざした活動を広げています。「運営委員会」は、会員労働組合等から選出された委員により構成され、各営業店における推進活動の中心的役割を担っています。

2024年度は、子ども向けアニメ祭りやサッカー大会の開催、こども食堂やフードバンクへの支援、福祉施設への寄贈、地域行事やボランティア活動への参加など、地域の課題解決やつながりづくりに貢献する様々な活動を県内各地で積極的に展開しました。また、各種活動を通じた収益金等については、地域や様々な団体に寄付を行っています。



【小諸支店】地域のお祭りへの参加



【更埴支店】こども食堂への寄贈

東海ろうきん

「はたらく人にありがとう」メッセージ募集

東海ろうきんは、はたらく人への「ありがとう」の想いをつづったメッセージ（400字以内）の募集を行っています。東海ろうきん設立10周年を記念して2010年度から始まった本事業は、「はたらくこと」について考え、また「はたらく人への感謝の気持ち」を発信する機会を提供するろうきんらしさ溢れる事業として多くの感動が生まれています。

2024年度の『第15回「はたらく人にありがとう」メッセージ募集』では、応募総数2,379通の中から大賞3作品・入賞9作品・特別賞3作品を選出し、11月23日（勤労感謝の日）に授賞式・朗読会を開催しました。



※受賞作品は「はたらく人にありがとう」メッセージ募集の特設サイトに掲載しています。



＼ 東海ろうきんHP /
「はたらく人にありがとう」
メッセージ募集特設サイト



近畿ろうきん

「エイブル・アートSDGsプロジェクト2024」の開催

近畿ろうきんは、地域との共生活動として2000年にスタートした「エイブル・アート近畿 ひと・アート・まち」の取組みを引き継ぎ、「ろうきんSDGs行動指針」に基づく取組みとして、2020年度より「エイブル・アートSDGsプロジェクト」を実施しています。

本プロジェクトは、一般財団法人たんぽぽの家との連携で、地域でSDGsの課題に向き合う取組みを「アートの視点からエンパワメントする」ことを通して、「誰一人取り残さない」社会づくりに寄与するプロジェクトです。

2024年度は、奈良県生協連および市民生活協同組合ならコープと協同し、「ARTS in CO-OP ～生活とアートの協同～」をテーマに、ならコープの奈良市・生駒市内の店舗を会場として、障がい者アートの展示やワークショップ等の各種プログラムを実施しました。



北海道ろうきん・全国のろうきん

こども食堂等への災害備蓄品の寄贈

全国のろうきんでは、会員や地域のNPO・福祉団体と連携し、こども食堂やフードバンク・フードドライブへの支援に積極的に取り組んでいます。

北海道ろうきんでは、営業店で更新時期を迎える災害備蓄品（飲料水・保存食）の寄贈を通じて、こども食堂やフードバンク等を支援しています。本取組みは「共生社会の実現」に向けて2022年度よりスタートし、生活困窮世帯の支援などを行うNPOやボランティア団体との連携を深め、福祉金融機関の役割を果たすことに加え、フードロス削減によるSDGsの目標達成を目的としています。2024年度は、各営業店が連携するNPO団体等を直接訪問し、全道36団体へ寄贈しました。

主な寄贈先（2024年度：全道36団体／北海道ろうきん）

- ・こども食堂北海道ネットワーク
- ・ワーカーズコープセンター事業団
- ・フードバンクイコロさっぽろ 他



静岡ろうきん

金融事業に社会貢献活動をプラスして、SDGsの達成をめざす「持続可能な社会づくり（子育て支援）」

静岡ろうきんは、これまで実践してきた社会貢献活動とSDGsを融合させた「静岡ろうきんSDGs実践方針」を策定し、誰一人取り残さない持続可能な地域社会の実現に向けた様々な取組みを展開しています。

2024年度「持続可能な社会づくり（子育て支援）」では、静岡ろうきん創立70周年記念社会貢献事業として2023年に設立した「（一財）静岡ろうきん子ども未来財団」が行う生活困窮子育て世帯向け支援金給付事業への寄付をはじめ、県立特別支援学校全25校への書籍「ロッキーブック」の寄贈（計248冊）、県内こども食堂を利用する子どもたちへのクリスマスプレゼントの贈呈※等を実施しました。



※静岡県内223カ所の「こども食堂」のうち希望のあった142カ所へ、県内11カ所の福祉事業所で作られたお菓子の詰め合わせを贈呈しました。

東海ろうきん

寄付型自動販売機の設置（岡崎支店）

東海ろうきんは、2024年4月より、岡崎支店の敷地内に「寄付型自動販売機」を設置しています。「寄付型自動販売機」の設置は東海ろうきんでは初めての取組みであり、販売代金の一部が、社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会へ寄付され、障がい者福祉・貧困対策・こども食堂などの福祉事業全般に活用されます。

2024年4月16日（火）に行われた自販機設置の記念式典では、社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会 会長 太田俊昭様にご参加いただいたほか、ろうきんキャラクター「ロッキー」「ピンキー」と岡崎市のご当地キャラクター「オカザえもん」が出席し、式典に華を添えました。

設置した自動販売機の装飾は、東海労働金庫岡崎支店の職員が担当しました。



九州ろうきん

児童養護施設の子どもたちへ図書寄贈の取組み

九州ろうきんは、子どもたちの成長を応援する活動として、2011年10月より九州7県の児童養護施設に対し、子どもたちが希望する図書の寄贈を行なっています。

2024年度は計1,198冊（2024年7月：602冊、12月：596冊）を寄贈し、寄贈図書の振り分け、包装・リボン掛けなどのラッピングは、職員によるボランティアで行いました。また、子どもたちが読みたい本を楽しく選べるように、本の表紙やあらすじなどを添えた図書一覧を作成しご案内しています。

取組開始から2024年12月末までの寄贈冊数は、合計17,278冊となりました。

なお、子どもたちからいただいたお礼のメッセージカードは、地域の皆さまとともに成長を見守ることを目的に、最寄りの営業店に一定期間掲示しています。



近畿ろうきん

近畿圏NPO支援センター連絡会議
(NPOパートナーシップ制度)の実施

近畿ろうきんは、近畿2府4県のNPO支援センターとの協働により、2000年度より「NPOパートナーシップ制度」を実施しています。本制度は、会員組合員や利用者と地域のNPOをつなぐことを目的に、NPO支援センターが企画・運営・実施するプロジェクト（セミナー・シンポジウム・調査研究等）を近畿ろうきんが支援するものです。これまでに、働く人のボランティア活動、自然災害に対する被災地支援、防災・減災のネットワークづくり、地域の居場所づくりへの支援活動を行っています。



2024年度は、支援センターと日本政策金融公庫をメンバーとする連絡会議（4回）を開催し、社会課題について勉強会を実施しました。また、各支援センターとの共催で「子どもの居場所づくり活動」や「子どもと防災・減災の取組み」についてのセミナーを計44回開催し、延べ943名が参加しました。

中国・東北・中央・新潟・北陸・東海・近畿・九州ろうきん

中国ろうきん杯
学童軟式野球選手権大会の開催

中国ろうきんは、野球を通じて新しい時代を担う学童の健全な育成と、広く地域社会に奉仕することを目的に、2004年より「中国ろうきん杯学童軟式野球選手権大会」を開催しています。

本大会は中国地区軟式野球連盟との共催により実施され、第21回を迎えた2024年度は、中国5県から計476チームが参加しました。決勝大会1日目を予定していた2024年10月19日はあいにくの雨模様でしたが、10月20日および11月16日に、各県予選を勝ち上がった代表8チームによる決勝大会が開催され、選手たちは日々の練習の成果を存分に発揮し、熱戦を繰り広げました。



なお、東北・中央・新潟・北陸・東海・近畿・九州の各ろうきんにおいても、地域の子どもたちの健やかな成長とスポーツ振興等を目的に、野球やサッカー等の選手権大会（ろうきん杯・ろうきんカップ）の主催・協賛に取り組んでいます。

四国ろうきん

「賀川豊彦記念・鳴門友愛会」との連携協定締結

四国ろうきんは、2024年4月1日、徳島で育った社会事業家・賀川豊彦（1888～1960年）の顕彰活動に取り組む「認定NPO法人賀川豊彦記念・鳴門友愛会」と包括的連携協定を締結しました。

日本の近代化の過程で社会的弱者の救済活動に尽力した賀川豊彦は、労働組合の必要性を訴え、協同組合運動の建設者・推進者としても活躍し、労働金庫の創設にも影響を与えました。

この協定では、賀川豊彦の協同組合精神の継承に共同して取り組むこととしています。2024年度は、鳴門市の「賀川豊彦記念館」で四国ろうきんの新入職員研修を実施し、賀川が提唱した「友愛・互助・平和」の精神に基づく軌跡を学びました。



沖縄ろうきん

「生理の貧困」解消に向けた会員団体との協働取組み

沖縄ろうきんは、沖縄県教職員組合（沖教組）および沖縄県労働者福祉基金協会との三者協同で、2022年6月より小中学生を対象とした「吸水サニタリーショーツ」の無償配布に取り組み、生理用品の調達に係る精神的負担、経済的負担の軽減につなげています。

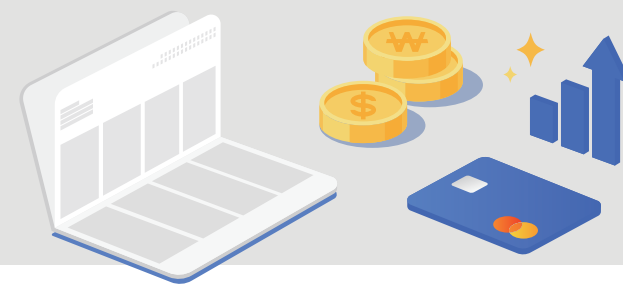
2024年4月～11月に実施した「笑顔であいたい感謝祭2024」では、面談やアンケート1件につき200円を沖縄ろうきんが負担し、総額110万円を「働く仲間のゆめ・みらい基金」へ寄付しました。この寄付金は、本無償配布制度の購入資金に活用されています。



取組期間 2024年度：2024年7月19日～2025年3月31日

- | | |
|------|--|
| 配布対象 | 主に経済的な理由で生理用品の購入が難しいと思われる児童・生徒
※対象者の判断は養護教諭またはスクールソーシャルワーカーが行います。 |
| 配布実績 | 県内小中学校141校へ980枚配布 |

全国のろうきんでは、若年者やはたらく人の金融リテラシーの向上を目的に、年間3万回以上のセミナーや学習会を開催し、60万人を超える方々に学びの機会を提供しています。



中央ろうきん

金融教育教材「新・大人社会へのパスポート5 (特別支援学校向け)」の制作と学校での金融教育の実施

中央ろうきんは、2025年2月、「新・大人社会へのパスポート5 (特別支援学校向け) ゲームで学んで夢へ近づく! お金マスターへの道」を制作しました。本教材は、特別支援学校に通う生徒が将来の夢に向けて必要なお金の計画の立て方や管理方法、消費者トラブル未然防止等の基礎知識を身に付けることを目的に制作したものです。高知大学教育学部附属特別支援学校の安岡知美教諭に監修いただいたほか、教材の制作コンセプトや演出、キャラクター等のアイデアは、法政大学経営学部 新倉ゼミからの提案を反映しています。

また、これまで制作した「新・大人社会へのパスポート1～5」(DVD・ワークブック)※を会員、学校、自治体、消費者団体等に紹介し、金庫職員が講師を務める金融教育を実施しています(2024年度: 中学・高校・特別支援学校・大学等での開催101回、参加者計6,132名)。

※「消費者教育教材資料表彰2025」[主催: (公財) 消費者教育支援センター]において、『新・大人社会へのパスポート4 つけこまれる人・つけこむ人～知らないと怖い! 実は身近な消費者トラブル3選～』が「消費者庁長官賞」、『新・大人社会へのパスポート5 (特別支援学校向け) ゲームで学んで夢へ近づく! お金マスターへの道』が「優秀賞」を受賞しました。

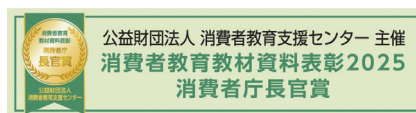
新・大人社会へのパスポート5



中央ろうきんHP/
新・大人社会への
パスポート5



新・大人社会へのパスポート4



中央ろうきんHP/
新・大人社会への
パスポート4



中国ろうきん

「高校生のための消費者講座」 への講師派遣

2022年4月から成年年齢が18歳に引き下げられ、消費者教育の必要性がより高まるなか、中国ろうきんは未成年者に対する消費者教育の一環として、中国4県の労働者福祉協議会および広島県労働会館が主催する「高校生のための消費者講座」へ職員を講師として派遣しています。

2024年度は、中国5県で34校へ講師派遣を行い、4,319名を対象に、悪質商法等による消費者トラブルの未然防止、ローンやクレジットの上手な利用法などの学習、啓発活動に努めました。これから社会に出る高校生が、金融取引においてのトラブルや悪質商法の被害に遭わないために、「自立した賢い消費者」になっていただくよう支援しています。



九州ろうきん

大学・高校・中学校等での 金融リテラシーの授業を実施

九州ろうきんは、中学生や高校生、大学生向けに、出張による「消費者・金融教育」学習会を開催し、社会生活に必要な金融リテラシーの向上をサポートしています。

授業では、夢や目的をかなえるための家計管理やローン、クレジットカードの仕組みや利用にあたっての注意点等をクイズを交えて解説しているほか、金融詐欺や多重債務問題等のマネートラブルへの注意を呼び掛け、トラブルに巻き込まれたときの相談窓口等についても周知しています。

2024年度は、九州ろうきんの営業店より各種教育現場に対して金融リテラシー講座の案内を行い、計42回の授業を実施しました(参加者計4,059名)。



3 地球環境の保全

事業における環境配慮、地域に根差した環境保全活動や未来に向けた環境教育活動

新潟ろうきん

「新潟県版雪国型ZEH」対応住宅を用途とする住宅ローンの金利引き下げの実施

新潟県は、2050年までの温室効果ガス排出量実質ゼロを目指し、新潟県の気候に適した高断熱、高気密なZEH（ゼッチ）※1を「新潟県版雪国型 ZEH」として普及を図っています。

新潟ろうきんでは、その普及促進による脱炭素社会の実現とSDGsの目標達成を目指し、2024年8月より、「新潟県版雪国型 ZEH」対応住宅を用途とする住宅ローンの金利引き下げを実施しています。具体的には、「あんしん住宅ローン（不動産担保型・無担保型）」※2をお申込みの際、「『新潟県版雪国型 ZEH』対応住宅を用途とする方」については、生活応援金利を適用し、通常金利から引き下げた金利を適用しています。

※1 ZEH（ゼッチ/Zero Energy House）：「住まいのエネルギー収支をゼロにする家」のこと。断熱・省エネ・創エネ等により、使うエネルギーよりも創るエネルギーの方が大きくなる住宅を指す。

※2 ご利用にあたっては、一定の条件があります。詳しくはろうきんまでお問い合わせください。



長野ろうきん

環境・気候変動等に関する取組み

長野ろうきんは、環境やひとにやさしい店舗づくりや、本部・営業店における省エネルギー活動等に取り組んでいます。店舗における環境配慮設備の導入では、全店舗でLED照明を導入しているほか、電気使用量削減の2030年に向けた指標（KPI：2024年3月末比で5%削減）を設定し取組みを進めています。また、一部店舗にて地中熱や太陽光パネルの設置によるグリーンエネルギーの積極的利用や、SDGs推進の観点から長野県が発行するグリーンボンドへの政策的投資も実施しています。

2024年度は、本店ビルのWi-Fi化および既存文書の電子化を契機とする「ペーパーレス化」に積極的に取り組んでいます。



東海ろうきん

CO2フリー電気「Greenでんき」の購入

東海ろうきんは、「環境方針」に基づく「全体・部店エコアクション目標」を設定し、環境保護につながる様々な施策を実施しています。

脱炭素に向けた取組みでは、2024年5月より、中部電力ミライズ（株）が提供するCO2フリー電気「Greenでんき」※を導入しました。「Greenでんき」の売り上げの一部は、中部電力グループの再生可能エネルギー施設（水力・風力・バイオマス等）の電源開発や改善・修繕に使用され、電力会社とともに地域の再エネ普及拡大や脱炭素化にも貢献することができます。

2024年度は、東海ろうきんの総使用電力の30%を占める本店ビルについて、使用電力量の10%の購入を進めました。

※Greenでんき

中部電力ミライズ（株）が調達した電気に、中部電力グループが保有する水力発電所等の再生可能エネルギー電源に由来する非化石証書の使用により環境価値を付加することで、実質的に再生可能エネルギー100%かつCO2ゼロエミッションの電気を提供するメニューです。

CO2フリー電気を
使っています
powered by 中部電力ミライズ

Green
でんき



4 多様なお客様への取組み

すべての人に利用しやすいインフラ整備

中央ろうきん

多様なお客様への 対応力向上研修の実施

中央ろうきんは、多様なお客様の要望や相談に対し金庫職員が適切に対応できるよう、各種研修に取り組んでいます。2024年度は、本部集合型研修として「認知症サポーター養成講座」および「障がい者対応プログラム」、社会的課題（LGBT、SOGI等）の知識向上や理解促進に向けた「社会的課題への知識向上プログラム」を実施しました。

また、2024年4月施行の「改正障害者差別解消法」を踏まえ、障害者差別解消法に係る知識の習得や、障がいのある方への適切な対応についての理解を深めることを目的に、動画・ガイドブック等の研修ツールを活用した店内研修（営業店・出張所・ローンセンターの全職員）を実施しました。



長野ろうきん

認知症への取組みと障がいをお持ちのお客様への対応

長野ろうきんは、認知症に対する正しい知識と理解を持って、地域や職域で認知症の方やそのご家族を手助けできるよう「認知症サポーター」の取得を推進しています（2025年3月末：241名）。また、障がいをお持ちのお客様に対する支援として、各種取扱手数料を無料化するとともに、全店舗に車椅子使用者用記帳台を設置しています。

2024年度は、介護福祉会から講師を招き、営業店・出張所のテラー担当職員を対象とする対応力向上研修を開催し、障がいをお持ちのお客様に対する合理的配慮や来店時の適切な対応を学びました。

なお、2025年2月より、人生100年時代を踏まえ、「老後や介護に備えたい」というお客様ニーズにお応えするため、新たな保険商品として「たんぽぽα（アルファ）」※の取扱いを開始しています。

※ご利用にあたっては、一定の条件があります。詳しくはろうきんまでお問い合わせください。



全国のろうきん

多言語パンフレット等の作成

ろうきんでは、外国人の方が円滑に預金口座を開設ができるよう、ろうきんの概要や口座開設手続き、適切な口座管理等を記載した多言語のパンフレットおよび普通預金新約申込書の記入例を制作しています。また、外国人の方へろうきんの成り立ちをわかりやすくお伝えすることを目的に、「マンガで読める ろうきん誕生物語」の多言語版を制作しました。

各種ツールは、主に会員の外国人組合員の方を想定し、日本語を含む7か国語（英語、中国語、インドネシア語、タガログ語、ポルトガル語、ベトナム語、日本語）で作成しています。



英語版

中国語版



ろうきんの各種
デジタルブックはこちら
マンガで読める
ろうきん誕生物語



5 安心・安全な社会の実現

金融犯罪の未然防止、平和かつ公正な社会の実現

全国のろうきん

安心してご利用いただくための金融犯罪防止の取組み

全国のろうきんは、安全かつ安心して金融商品・サービスをご利用いただけるよう、振り込み詐欺等への対策、インターネット・バンキングのセキュリティの向上（複数のパスワードによる本人認証、取引内容に応じた電子メールの送信、セキュリティソフトの無償提供など）、反社会的勢力との関係遮断、重大な組織犯罪の資金源であるマネー・ローンダリング対策の推進など、各種犯罪の抑止に向けた様々な対策を講じています。

また、2025年1月、労金連合会ホームページにおいてフィッシング詐欺、口座譲渡・口座売買・口座レンタル、金融犯罪の手法・手口についての注意点や注意喚起動画をまとめたWEBページを公開しました。



＼ 労金連合会HP /
金融犯罪注意喚起ページ



静岡ろうきん・全国のろうきん

特殊詐欺防止の取組みと警察との連携協定の締結

全国のろうきんは、特殊詐欺防止に向けて、啓発チラシの配布や窓口での声掛け、ホームページやろうきんアプリ等で注意喚起を行っています。

静岡ろうきんでは、定期的に「ろうきんダイレクト」契約者宛にフィッシング詐欺等への注意喚起メールを送信しているほか、2022年度より、静岡ろうきん独自に高齢者の特殊詐欺被害防止に係る利用制限メッセージをATM画面へ表示するなど、お客様に対する継続的な意識啓発を実施しています。

また、2025年3月14日、静岡県警察本部と、インターネットバンキング取引等の監視強化および不審取引検知時における通報体制を一層拡充するため、「インターネットバンキング等を利用する詐欺被害防止の連携に関する協定書」を締結しました。



東北ろうきん

「緊急避難所こども110番」・「高齢者等見守り活動」への協力

東北ろうきんは、地域社会への貢献活動として、子どもたちの安全を守る「緊急避難所こども110番」※や自治体との連携による「高齢者等の見守り活動」に取り組んでいます。

「緊急避難所こども110番」では、子ども等を対象とした犯罪に対する地域をあげた防犯・安全対策として、東北6県の店舗ATMコーナー（23カ所）を、万一の時に避難できる場所として提供しています。

また、高齢者等が住みなれた地域で安心して生活することができるよう、何らかの支援を必要とする高齢者等を早期に発見し支援につなぐ「高齢者等見守り活動」に協力し、自治体との協定・覚書の締結や事業所登録等を進めています（15自治体）。

※子どもが何らかの被害に遭った、または遭いそうになったと助けを求めてきたとき、その子どもを保護するとともに、警察、学校、家庭などへ連絡するなどして、地域ぐるみで子どもたちの安全を守っていくボランティア活動です。



「こども110番」ボタン設置機器



ろうきん

森の学校

ろうきん森の学校

—「森づくり」から「人づくり」、「地域づくり」につながる活動—

「活動の3つの柱」と 全国5地区に広がる森の学校

- 1 森を育む** 植樹、間伐、下刈り等の森林整備
- 2 人を育む** 森づくりや環境教育リーダーの育成
- 3 森で遊ぶ** 里山を活用した自然体験・環境教育プログラムの開発と実施


【福島地区】
小学校環境教育支援

【岐阜地区】
もりっちクラブ

- ① 富士山地区** (静岡県富士宮市他)
NPO法人ホールアース自然学校
- ② 福島地区** (福島県いわき市)
NPO法人いわきの森に親しむ会
- ③ 新潟地区** (新潟県上越市)
NPO法人かみえちご山里ファン倶楽部
- ④ 岐阜地区** (岐阜県美濃市)
NPO法人グリーンウッドワーク協会
- ⑤ 広島地区** (広島県山県郡北広島町)
NPO法人ひろしま自然学校

「ろうきん森の学校」は、労働金庫連合会（労金連）の50周年記念社会貢献活動として、2005年に全国3地区のNPOと協働で開校した取組みです。2014年からさらに2地区が加わり、富士山・福島・新潟・岐阜・広島の全国5地区で活動を展開しています。「森を育む」「人を育む」「森で遊ぶ」の3つを活動の柱として取り組み、里山再生や環境教育人材育成、子

どもから大人まで多様な人が楽しめるプログラムの提供等を行っています。

2024年度は、森林整備や自然体験に加えて、地域の課題解決に取り組む人材を育成する研修を実施するなど、各地区で様々なプログラムを実施し、開校以来の延べ参加者数は、5地区合計で286,203人となりました。

開催報告

ろうきん森の学校
20周年記念シンポジウムを開催しました

労金連は、2025年3月14日（金）、「ろうきん森の学校」の20周年を記念するシンポジウムを開催し、各地区NPO担当者や労金連関係者、各ろうきんのCSR担当役職員など約60名が参加しました。第1部では、「ろうきん森の学校20年のあゆみ」について、全国事務局と5地区から成果報告が行われました。また、第2部は、慶應義塾大学の宮垣元教授をゲストコメンテーターに迎え、「里山コモンズ自然学校としてのろうきん森の学校の意義」をテーマにパネルディスカッションを行いました。

森の学校の20年間の参加人数は、延べ28万人に及びます。シンポジウムでは、これまでの取組みをふりかえるとともに、2030年に向けて里山を新たなコモンズ（共有財産）として捉え直し、NPOが果たすべき役割について活発な議論が行われました。



ろうきん森の学校

WEBサイト



note



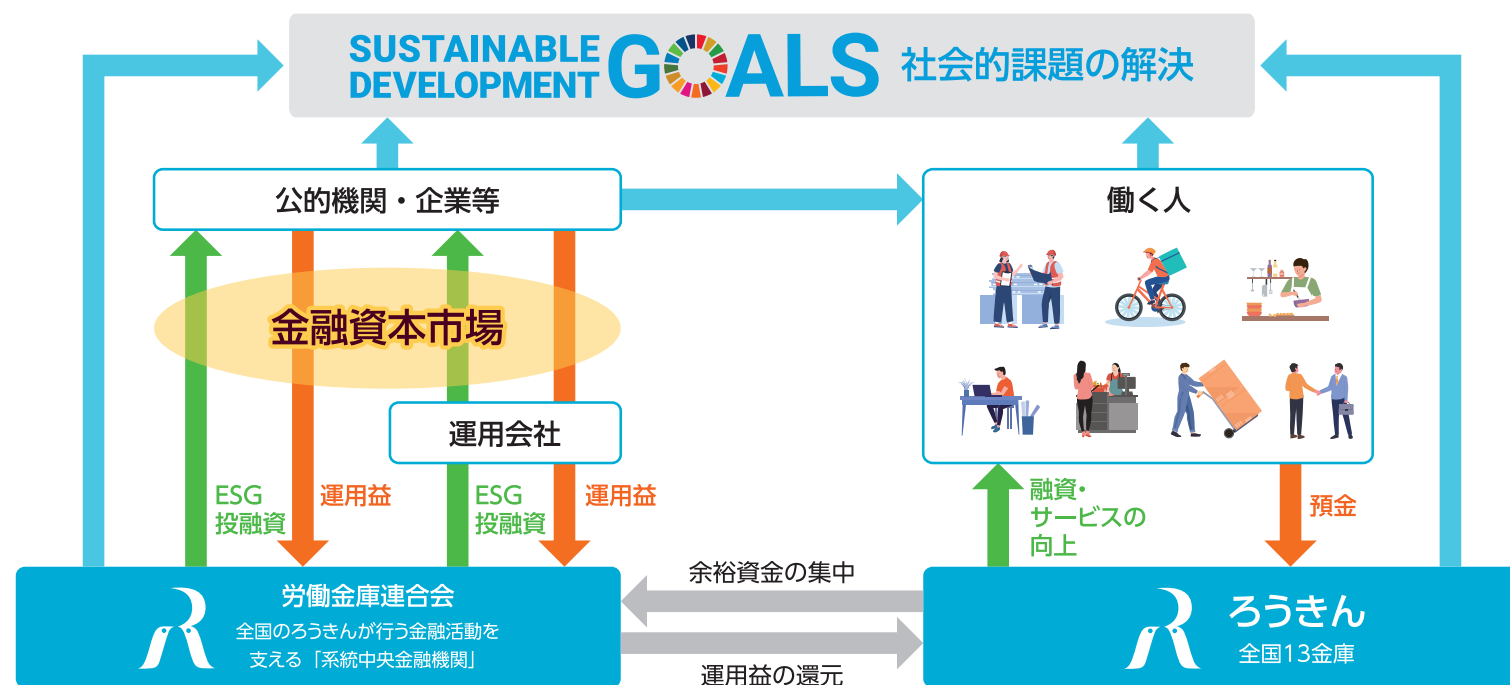
ESG投融資の取組み

ろうきんは、働く人の大切な資金を、働く人自身の生活向上のための融資や、社会や環境等に配慮したESG投融資などに役立てることを通じて、持続可能な社会の実現に資するお金の流れをつくりだしていきます。

ろうきんのESG投融資とSDGsの関係

労働金庫連合会（労金連）は「ろうきんの理念」にある「人々が喜びをもって共生できる社会の実現に寄与すること」を実現するため、「経営方針」において、「社会的責任（CSR）を重視した誠実な経営」を掲げています。

このような経営方針を実践し、SDGsを達成していくため、持続可能な社会の実現をめざす金融の担い手として、働く人を取り巻く社会的課題の解決につながる資金循環をつくりだしていくことが必要であるとの考えのもと、ESG投融資に取り組んでいます。



ESG投融資とは？

ESG投融資とは、投資先決定にあたって、財務分析だけでなく、環境（E: Environmental）・社会（S: Social）・企業統治（G: Corporate Governance）の課題を考慮し、投資を行うものです。

責任投資原則（PRI）への署名

労金連は、2017年9月にろうきん業態を代表し、国内預金取扱金融機関（信託銀行を除く）で初めて、国連が提唱する「責任投資原則（PRI: Principles for Responsible Investment）」に署名しています。PRIとは、投資行動にあたって、投資先企業のESG課題への取組みに配慮することを宣言したものです。2025年3月末日現在、世界で約5,300の機関投資家や運用会社等が賛同署名しています。



21世紀金融行動原則への署名

全国のろうきんおよび労金連は、「持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則（21世紀金融行動原則）」に2012年2月に署名しています。同原則の趣旨は、「ろうきんの理念」および労金連の経営方針に掲げる「社会的責任（CSR）を重視した誠実な経営」に通底しており、ガイドラインの取組み事例と労金連の実践内容が一致しています。



全国労働金庫企業年金基金による日本版スチュワードシップ・コードの受け入れ

全国労働金庫企業年金基金では、2021年4月に「日本版スチュワードシップ・コード」の受け入れを表明しました。当コードの主旨は、議決権行使や目的を持った建設的な対話を通じ年金資産の投資先企業の価値向上や持続的成長を促し、中長期リターン拡大を図ることにあります。対話の主要テーマの一つに「ESG要素改善への取組み」を掲げ、持続可能な社会の実現を目標に活動に取り組んでいます。

ESG投融資の実践

労金連は、全国のろうきんの貸出金以外の運用可能な余裕資金を労金連に集中し、効率的に運用するなかで、投資先企業のESG課題への取組みに配慮したESG投融資を実践しています。またインパクトファンドなど、持続可能で包摂的な世界の実現に向け、好ましいインパクトをもたらす企業への投融資を行っています。



なぜ「ESG」の中でも「S」の取組みに注力しているのか

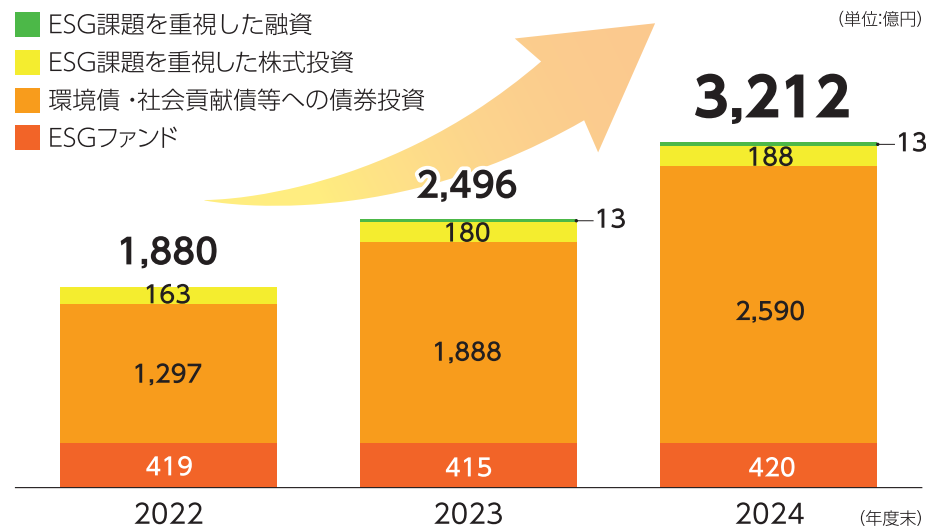
労金連におけるポジティブスクリーニングの審査においては、ESG課題の中でも「S：社会（労働環境）」に重点を置いた評価を行い、投資の判断材料としています。「人材活用」の分野において、就業機会の拡大や、意欲・能力を存分に発揮できるような環境整備など、労働環境の改善に積極的に取り組む企業を高く評価し、そうした労働環境改善にポジティブな企業への投資を推進していくことは、「少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少」や「育児や介護との両立など、働く人のニーズの多様化」などの社会的課題の解決にもつながると考えています。

「ろうきん」は、働く人の置かれた個々の事情に応じて、多様な働き方が選択できる社会を実現し、働く人一人ひとりがよりよい将来の展望を持てるよう、働く人のための福祉金融機関としての役割をより一層、発揮していきます。

● 2024年度の投融資実績

ファンド・債券・株式・シンジケートローン	投融資残高
	2025年3月末
ESGファンドへの投資残高	420億円
環境債・社会貢献債等への債券投資残高	2,590億円
うち、環境債（グリーンボンド）	(808億円)
うち、社会貢献債（ソーシャルボンド）	(657億円)
うち、サステナビリティボンド等	(1,125億円)
ESG課題を重視した株式投資残高	188億円
ESG課題を重視したシンジケートローンへの融資残高	13億円
合計	3,212億円

● ESG投融資の実績の推移



ディーセント・ワークの実践

ろうきんは、2019年9月、労働金庫にふさわしい「組織風土」の確立に向けた基本方針を確認し、労使一体となった様々な取組みを進めています。

基本方針（抜粋） 労働金庫にふさわしい「組織風土」の確立に向け、職員が能力を発揮しながら働き続けられ、モチベーションの向上に繋がっていく職場環境の整備を進め、同一労働・同一賃金への対応を含むディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）と福祉金融機関としての役割発揮によるSDGsの実現に取り組んでいく。

育児休業等取得率（2024年度）※1

- 「男性の育児休業取得に関する業態ガイドライン（男性の取得割合 50%）」を設定し、男性の育休取得を促進しています。
- 2024年度は、11金庫2団体が目標を達成しました（1団体は対象者なし）。

男性 [金庫・団体別]		女性
最大値	最小値	
157.1%※2	40.0%	100%

男女の賃金の差異（2024年度）※1

- すべての金庫・団体が男女の賃金の差異の公表を行っています。
- 労金業態における賃金差異の平均（全労働者）は、70.5%となりました。

労金業態	[金庫・団体別]	
	最大値	最小値
70.5%	80.5%	56.2%

〔参考〕金融業・保険業（全労働者）平均：61.3% ※3

〔注釈〕・短時間勤務制度等の利用が女性に多いこと、女性の管理職比率が低いこと等が、男女の賃金差異の主な要因となっています。

・賃金制度（賃金や処遇等）に男女差はなく、同一の基準を適用しています。

女性の管理監督職比率（2024年度）※1

- 男女ともにすべての職員がその希望に応じて経験や能力を最大限発揮して活躍し、働き続けられる職場環境の整備を進めています。

女性の割合	労金業態	[金庫・団体別]	
		最大値	最小値
役職員に占める女性労働者の割合（正職員）	43.3%	52.8%	35.1%
係長級にある者に占める女性労働者の割合	41.3%	56.8%	22.1%
管理職に占める女性労働者の割合	19.9%	30.6%	3.2%
役員に占める女性の割合	5.0%	16.7%	0.0%

くるみん・えるぼしの認定（2025年3月末）※1

- 仕事と子育ての両立支援に向けて積極的に取り組む「子育てサポート企業」として厚生労働大臣の認定を受け、5金庫3団体が「くるみんマーク」、5金庫が「プラチナくるみんマーク」を取得しています。
- また、女性の活躍推進に関する取組みの実施状況が優良な企業として厚生労働大臣の認定を受け、計7金庫が「女性活躍に基づく認定マーク（えるぼし・プラチナえるぼし）」を取得しています。

くるみん認定

くるみん
5金庫 3団体



静岡・北陸・中国・四国・
沖縄ろうきん、労金協会・
労金連合会・日信協

えるぼし認定

2段階目
1金庫



東海ろうきん

3段階目
5金庫



中央・北陸・中国・
四国・沖縄ろうきん

プラチナえるぼし
1金庫



近畿ろうきん

健康経営の推進

- すべての労働金庫（13金庫）が「健康経営優良法人2025」に認定され、うち新潟・長野ろうきんが大規模法人部門の上位500法人を認定する「ホワイト500」に認定されました。



大規模法人部門 ホワイト500	大規模法人部門	中小規模法人部門
新潟・長野ろうきん	北海道・東北・中央・静岡・北陸・ 東海・近畿・中国・四国・九州ろう きん、労金連合会、日本労信協	沖縄ろうきん、東海労金サービ ス、労金協会、全国労働金庫健 康保険組合

※1 すべての労働金庫（13金庫）および中央機関（3団体）を対象に集計

※2 対象年度内に育児休業等を取得した者の数／対象年度内に配偶者が出産した者の数

※3 女性の活躍推進企業データベースオープンデータ（2025年6月17日時点）をもとに作成

取組みのハイライト

全国のろうきん：2024年度実績

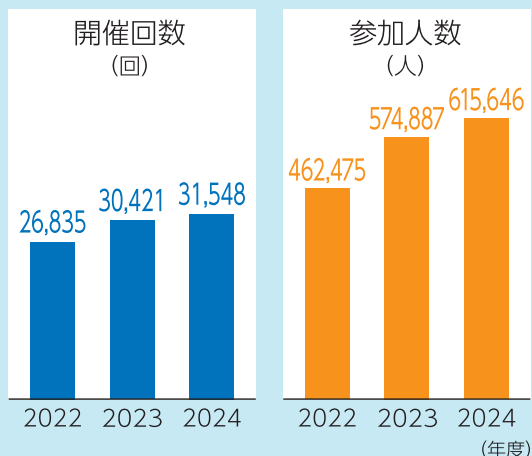
各種セミナー、 消費者・金融教育等の実施状況

(2024年4月～2025年3月)

会員（労働組合・生協等）

開催回数 **31,548**回

参加人数 **615,646**人



可処分所得向上のための借換え運動

(2024年4月～2025年3月)

カードローン※1

件数 **14,149**件

金額 約 **225**億円

※1 集計対象：11金庫

無担保ローン

件数 **15,958**件

金額 約 **369**億円

はたらく人の資産形成 (2025年3月末)

財形貯蓄

契約件数 約 **217**万件

貯蓄残高 約 **3兆4,308**億円

iDeCo 加入者等件数 約 **33**万件

NISA □座数 約 **21**万件

行政と連携した求職者や職業訓練生の支援

(2024年4月～2025年3月)

求職者支援資金融資制度

新規実行件数 **140**件

新規実行金額 **4,923**万円

技能者育成資金融資制度

新規実行件数 **160**件

新規実行金額 **2億627**万円

多重債務問題への 取組み状況※2

(2024年4月～2025年3月)

相談
件数 **1,330**件

金額 約 **74**億円

※2 集計対象：10金庫

ろうきんのネットワーク

ろうきんは、北海道から沖縄まで、全国13のろうきんでネットワークを形成し、地域の特性にあった様々な活動を展開しています。

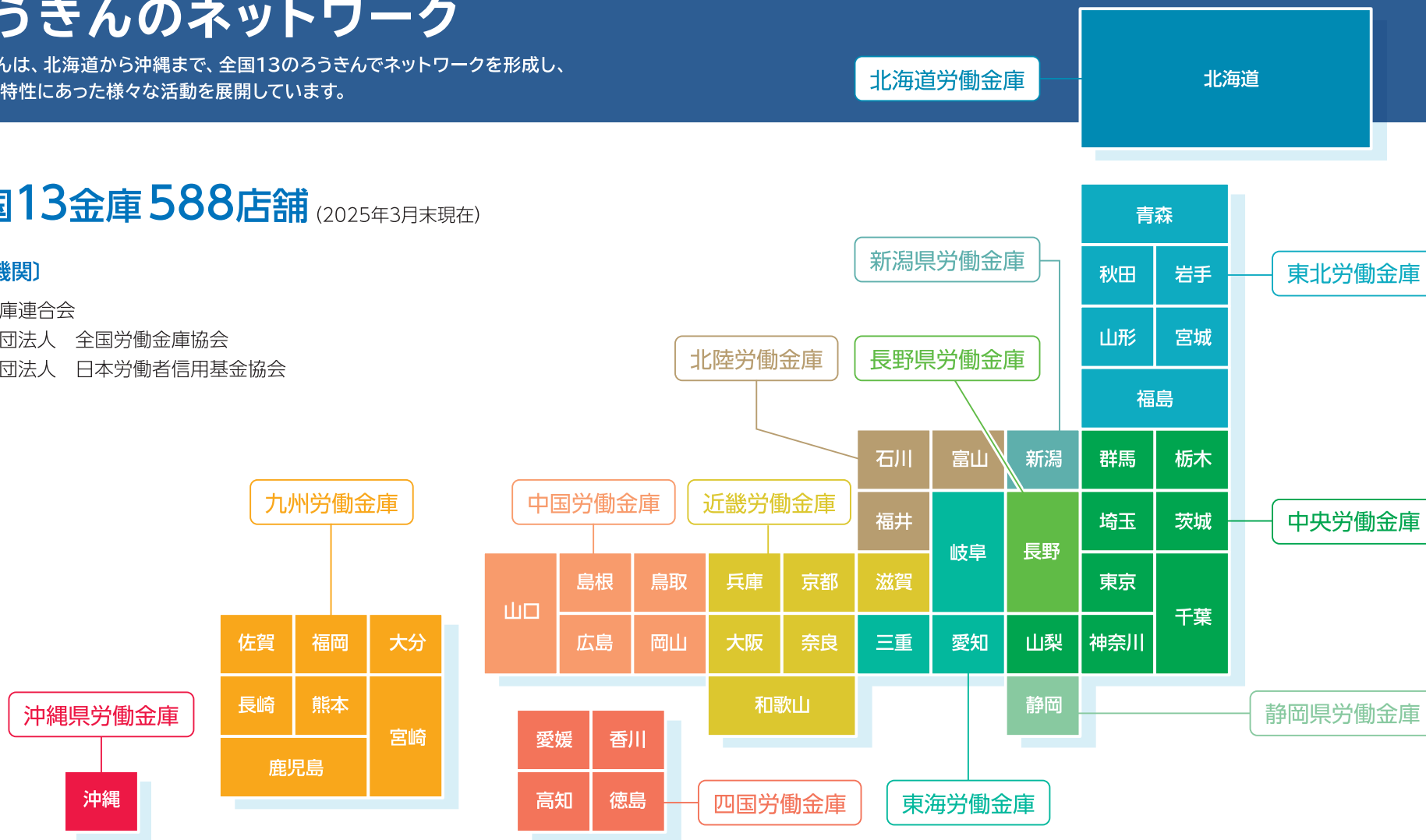
全国13金庫588店舗 (2025年3月末現在)

〔中央機関〕

労働金庫連合会

一般社団法人 全国労働金庫協会

一般社団法人 日本労働者信用基金協会



お近くのろうきんの
ウェブサイトは
こちらから



一般社団法人 全国労働金庫協会

〒101-0047 東京都千代田区内神田1丁目13番4号

HP : <https://all.rokin.or.jp/>



ろうきんSDGsアクション


ろうきんはIYC2025に賛同しています



国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます


見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。